

新宮山彦ぐるーぷ第2104回

不動峠地藏堂竣工落慶式

◇実施日…2020年11月15日(日) 晴

◇参加者…沖崎吉信、濱野兼吉、大江加代子・徳子、畑林秀味・

清子、生熊千万子、中前偉、山川治雄・自知、岩本信

行、竹中卓治、高階鈴子・美根子、梶野照雄、今中三

幸子

16名

10月18日、当ぐるーぷから12名が参加して不動峠地藏堂再建のための資材荷揚げを行ったが、順調に建築工事が終わり、予定通り11月15日に落慶式を迎えた。



下桑原の登山口



完成した地藏堂



本隊が到着

当日は熊野修験の行者10名と一緒に、70数名が下桑原の不動トンネル下登山口から不動峠を目指した。

私は一人で先着すべく浦向側から登って皆の到着を待つ。モノレーを過ぎたところで下北山村の人が4人休憩していた。峠に着くと2人の人が準備を始めていた。どちらも10月18日の荷揚げでお会いした方で、お手伝いをしながらお話をする。

準備が一段落したところでカメラ用の三脚を立てる。遠くで法螺貝の音が聞こえてきた。登りだしているようだ。



人で埋め尽くされる

山本会長の挨拶

松田氏の挨拶

40分程経って先頭が見えた。柴田行者を先頭に「懺悔、懺悔、六根清浄」と唱えながら長い隊列が続いた。先頭集団には40kgの石板を担ぎ上げたトム君の顔も見える。5分経って最後尾が到着。主催者から、少し早い落慶式の開始までに昼食を済ませて欲しいとの連絡があった。

午前11時から落慶式が始まった。地藏堂修復保存会の山本会長

挨拶、大淀町教育委員会の学芸員松田氏、当ぐるーぷの沖崎代表の挨拶が続き、建築に携わった大工棟梁の下西氏と石板を寄贈された松島石材店に感謝状が贈られた。



沖崎代表挨拶

下西棟梁に感謝状

河村住職による法要

事務局長の山本氏から地藏堂再建までの経過が報告され、地元の仲奈央子氏が採譜・編曲・歌唱の「北山川筏節」が披露された。

続いて北山村見福寺の河村住職による落慶法要が行われ、全員が焼香した。その後、埋経が行われた。陶板に書かれた法華経を3mm厚のステンレス容器に入れたもので、隙間なく溶接されていて、15kgほどの重さがあった。以前のお堂は100年前に建て替えられたので、次に建て替えが有るとすれば、お堂が朽ちてもこの容器だけは今の状態を保っているだろう。

ここ迄で一時間、次に熊野修験の採灯護摩供が始まる。屋外の護摩供では珍しく、行者全員が地面に座って行われた。仏具や太鼓、護摩焚きを使う鉄鍋も担ぎ上げていた。帰り際に用具を括りつけた

背負子を持ってみたが、15〜16kgの重量だった。約50分で護摩供が終わり、保存会の副会長から閉会の挨拶があった。



経箱の埋設

熊野修験の採灯護摩供



本日の参加者



行者さんと写真に納まる



村民女性はモノレールで

総勢80名を越える一大イベントは無事に終了し解散、登山口に戻って帰宅した。

(記；梶野)

行動タイム

08：10 浦向登山口↓09：23 不動峠↓10：15 本隊到着↓11：00 式典開始↓12：13 熊野修験護摩供↓13：00 式典終了↓13：25 下山開始↓14：35 浦向登山口